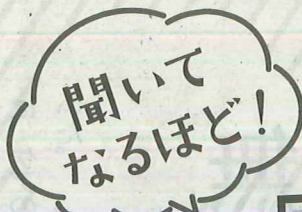


SBS 静岡健康増進センター公開講座2024



いきいきライフ



SBS 静岡健康増進センターの公開講座「聞いてなるほど いきいきライフ」の2024年度のシリーズ(全3回)がこのほど、静岡市葵区のしずぎんホールユーフォニアで始まった。第1回の後半は、浜松医療センター感染症管理特別顧問兼浜松市感染症対策調整監の矢野邦夫さんが「感染症の話」と題して講演した内容を紹介する。

〈企画・制作/静岡新聞社地域ビジネス推進局〉

公益財団法人
SBS 静岡健康増進センター

〒422-8033 静岡市駿河区登呂3-1-1

電話▶054(282)1109

URL▶http://sbs-smc.or.jp



感染症の話

主催▶公益財団法人 SBS静岡健康増進センター、静岡新聞社・静岡放送 後援▶静岡県、(一社)静岡県医師会、(一社)静岡県歯科医師会、(公社)静岡県薬剤師会、静岡市

ワクチン、手洗いで感染防止を

新型コロナ定期接種 65歳以上ぜひ打って

本日は、近年患者数の多い7つの感染症について紹介します。

まずは新型コロナウイルスです。風邪とは多くの病原体の集合体で、一番多いのはライノウイルス、その次がコロナウイルスです。

有史以来、さまざまな風邪ウイルスが発生してきましたが、新型コロナウイルスは今後も残り、単なる風邪ウイルスに移行することでしょう。10月からワクチンの定期接種が始まりましたが、重症化しやすい65歳以上の方はぜひ打ってほしいと思います。

ところでコロナ禍の時、アルファ株やオミクロン株など次々と変異株が出て、皆さんもその都度緊張し混乱されたことと思います。この変異株の出現を、戦国武将に例えて説明しましょう。

戦国時代の初期、無名の武将が多かった中で織田信長が現れ、日本統一を狙ったものの、本能寺の変で殺されました。その次に豊臣秀吉が台頭しました。こちらも長くは続かず、その後徳川家康が完全に日本統一したわけです。

さらに徳川家も2代、3代と続いていきます。

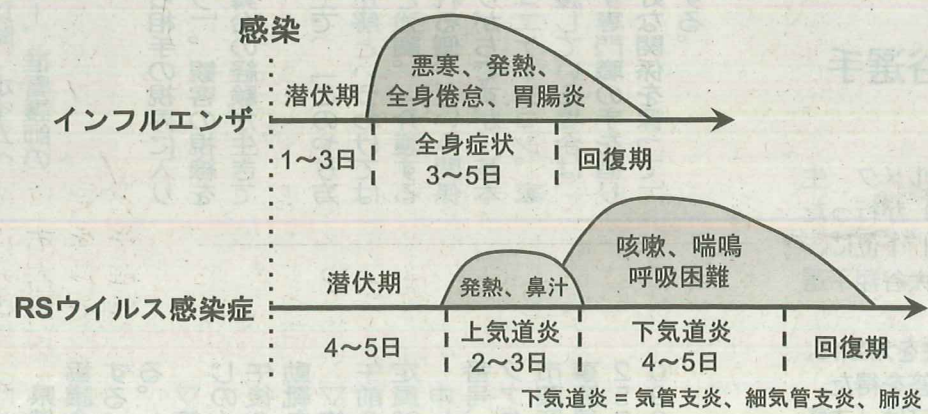
このように、戦国武将は非常に激しい戦いを繰り返して、少しでも弱点を見せたらそこで終わりでした。コロナウイルスもわかりで、厳しい生存競争の中で生き残ったウイルスが、世界を制覇していくのです。

RSウイルス感染症 高齢者も肺炎に注意

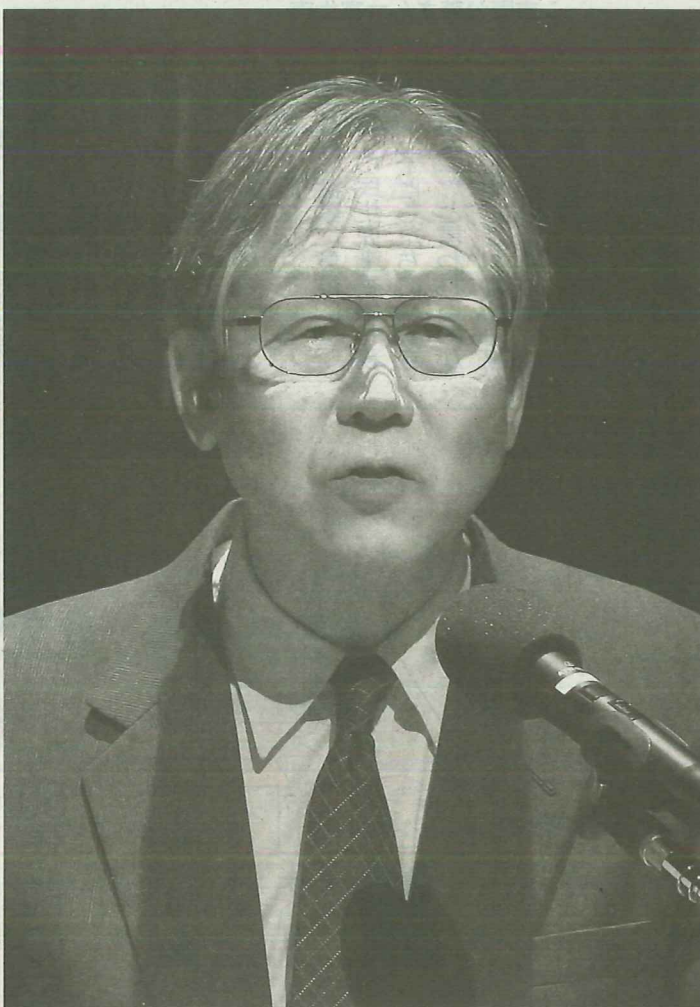
次はインフルエンザです。インフルエンザの型は4種類あります。インフルエンザAの中にH1とH3、インフルエンザBに山形系統とビクトリア系統があり、毎年パターンが変わります。特にH3が流行するときはワクチンの効果が少し落ちるため、注意が必要です。

ウイルスの排出期間は、発症後24〜48時間がピークです。正常免疫の年長小児や成人であれば、発症後5日以降になれば排出はほぼなくなります。予防接種は、不活化ワクチンがお勧めです。重症卵アレルギーの方やアレルギー性鼻炎、妊婦、がん患者、免疫不全患者

インフルエンザおよびRSウイルス感染症の臨床経過



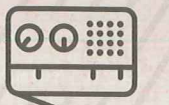
にも接種可能です。妊婦の場合、接種の副反応で胎児への悪影響を心配する方がいますが、それは誤りです。妊娠中は一時的に免疫が低くなるため、妊婦の致死率が高くなるのです。さらに、胎児の神経系の発達は熱が出ると抑制されます。母体が高熱をだすと、産まれてくる赤ちゃんの神経に障害が出やすくなります。妊婦はぜひともワクチンを接種してください。



浜松医療センター感染症管理特別顧問 兼 浜松市感染症対策調整監

矢野 邦夫 さん

やの・くにお 1981年、名古屋大学医学部卒業、名古屋第二赤十字病院、名古屋大学病院を経て米国フレッドハッチソン癌研究所留学。帰国後、浜松医療センターに勤務。同院在籍中、ワシントン州立大学感染症科に短期留学。2008年より副院長。20年より院長補佐。21年より現職。

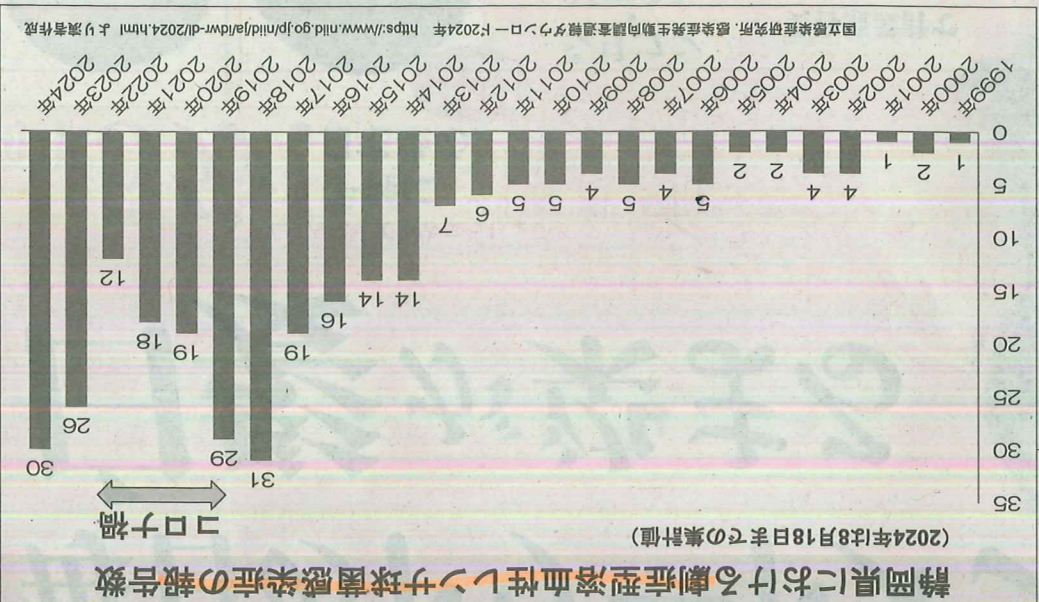


矢野邦夫さんの講演は

SBSラジオで聞いていただけます。

11月17日(日) 18:30~19:00放送

SBSラジオ (1404kHz / 1557kHz)



。この中で、矢野邦夫氏は、新型コロナウイルス感染症の流行が、日本社会に与えた影響を、その中でも、特に「高齢者の死亡率の上昇」に焦点を当てて、その背景と対策について、詳しく解説されています。

矢野氏は、高齢者の死亡率が上昇した理由として、高齢者の免疫機能の低下、基礎疾患の増加、医療体制の逼迫などを挙げています。また、高齢者の生活環境、例えば一人暮らしの増加や、社会的孤立なども、健康状態に影響を与えていると指摘しています。

対策として、矢野氏は、高齢者の健康増進、基礎疾患の適切な管理、医療体制の強化、そして、高齢者の生活環境の改善を提言しています。特に、高齢者の社会的孤立を解消し、コミュニティを築くことが、健康維持に重要な役割を果たしているとしています。

。この中で、矢野邦夫氏は、新型コロナウイルス感染症の流行が、日本社会に与えた影響を、その中でも、特に「高齢者の死亡率の上昇」に焦点を当てて、その背景と対策について、詳しく解説されています。

矢野氏は、高齢者の死亡率が上昇した理由として、高齢者の免疫機能の低下、基礎疾患の増加、医療体制の逼迫などを挙げています。また、高齢者の生活環境、例えば一人暮らしの増加や、社会的孤立なども、健康状態に影響を与えていると指摘しています。

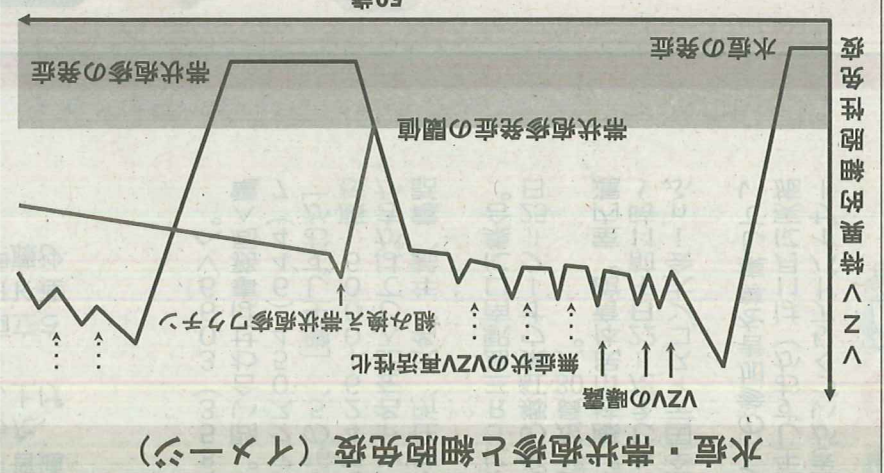
対策として、矢野氏は、高齢者の健康増進、基礎疾患の適切な管理、医療体制の強化、そして、高齢者の生活環境の改善を提言しています。特に、高齢者の社会的孤立を解消し、コミュニティを築くことが、健康維持に重要な役割を果たしているとしています。

高齢者の死亡率上昇の背景と対策

。この中で、矢野邦夫氏は、新型コロナウイルス感染症の流行が、日本社会に与えた影響を、その中でも、特に「高齢者の死亡率の上昇」に焦点を当てて、その背景と対策について、詳しく解説されています。

矢野氏は、高齢者の死亡率が上昇した理由として、高齢者の免疫機能の低下、基礎疾患の増加、医療体制の逼迫などを挙げています。また、高齢者の生活環境、例えば一人暮らしの増加や、社会的孤立なども、健康状態に影響を与えていると指摘しています。

対策として、矢野氏は、高齢者の健康増進、基礎疾患の適切な管理、医療体制の強化、そして、高齢者の生活環境の改善を提言しています。特に、高齢者の社会的孤立を解消し、コミュニティを築くことが、健康維持に重要な役割を果たしているとしています。



矢野邦夫さん

矢野邦夫さん 1981年、名古屋大学医学部卒業。名古屋第二赤十字病院、名古屋大学病院を経て米国ペンシルベニア州立大学感染症国際感染症センターに勤務。同院在籍中、コンプトン立大学感染症センター短期留学。2008年より副院長。20年より院長補佐。21年より現職。

浜松医療センター 感染症管理特別顧問 兼 浜松市感染症対策協議会